

銀漢亭日録

伊藤伊那男
vol.1(2010.8.19~11.13)



金融関係のビジネスマンから一転して飲屋の親父になって8年目。趣味の俳句が昂じてこの度俳句誌「銀漢」を創刊主宰することになった。還暦も過ぎた61歳。これも運命の巡り合わせか。40歳頃から日記を付けなくなったが、今後は「銀漢亭日録」を残すことにする。

- 8.19 (木)

「銀漢句会」40名超の出句。終わって24名が来て親睦会。
- 8.20 (金)

「慶応茶道会」先輩11人が来店。
- 8.28 (土)

日本橋・鯨の与志喜を会場とする男だけの「纏句会」。あと17:30から運営委員会。
- 8.29 (日)

盤水先生9:30頃逝去の知らせ受く。近所で整体を受けている最中。
- 8.30 (月)

学生時代、3号まで続いた同人誌「惰眠の会」の仲間6人来店。当時、詩を書いた。
- 9.03 (火)

盤水先生、通夜の日にて店休みとする。中野・宝仙寺。秋夕焼の中。
- 9.04 (水)

告別式。直会の席で池内けい吾氏のハーモニカの曲（師の持ち唄）に泣く。
- 9.14 (火)

「火の会」7人来。秋刀魚の味噌漬けなど。
- 9.17 (金)

片山一行氏父上・辰巳氏、宇和島より来京。歓迎会を奥で。13人。氏より宇和島のじゃこ天やちくわなど前日到来。清人さんが鮎を刺身に。21:30「天為俳句会」編集部一行来店。
- 9.21 (火)

「天為俳句会」新人賞（矢野玲奈、内村恭子）及び同人昇格の祝賀会で貸切。約30名超。シャンパンで乾杯。店内を暗くしてダンスタイムも。
- 9.27 (水)

「俳句年鑑」用年代別70歳代女性、原稿約15枚、ほぼ仕上げる。午後、群馬の窪田明氏、月山麓の舞茸を届けてくれる。バレーボールほどの大きさ。この日「湯島句会」に芋煮準備中にて早速、舞茸を加える。久々、樺未知子さん来る。ひょっこりと大井恒行氏と鳥田牙城氏が飲みに来たので加わってもらう。40数名。
- 9.28 (木)

新海あぐりさん来店。5月で光文社退社したと。21:30頃、「天為俳句会」対馬、小石、玲奈、内村、有史氏など来店。不入りの日。寝過ごして上北沢。
- 9.30 (金)

武田禪次氏、三菱商事時代の部下3人連れて来店。1人は「万緑」重鎮であった貞弘氏の長男であった。21:00過、有史、対馬、今井肖子さん他集まる。天野小石さんの誕生日。シャンパンで乾杯。「俳句」の河合編集長、退任の挨拶とて来店。発行所にて、3か月前に発足した女性だけの「十六夜句会」あり。
- 10.01 (金)

小島健氏久々に来店す。真砂年さんが土肥あき子さんと来店。武田編集長より創刊号用出句箋受ける。百人超になりそう。
- 10.03 (日)

「長月句会」荻窪の会場。折しも桃井の神社のお祭で太鼓や囃子が会場に聞こえる。20:00過帰宅。「りんどう」の同人評にとりかかる。但し酒が入ると集中力なくて駄目。
- 10.05 (火)

客少なく、伊那北高校先輩が4人来店。俳句に少し興味あるか？
- 10.06 (水)

19:00から馬場龍吉氏来て編集会議。一伯君の絵で何とも格調ある表紙ができそう。
- 10.08 (金)

伊勢神宮宮司で広報部長の河合真如氏、宮澤と来店。筆、菓子など土産いただく。
- 10.09 (土)

雨。「銀漢鍛錬句会」等々力溪谷、野毛古墳、九品仏（楸邨の墓）、自由が丘で昼、鰻で酒。東工大で句会。30人程。17:00から大岡山駅前・庄屋で親睦会。5、6名が俳号をつけることになり、盛り上る。阪西敦子、しなだしん氏の2人が外部参加。
- 10.10 (日)

「第1回 ひぐらしの里俳句大会」選者。日暮里・本行寺。朝から昼迄雨。あと晴。銀漢グループ34名参加。あと中華料理店にて打上げ。
- 10.11 (月)

11:00より、高幡不動・大日堂にて、皆川盤水先生の四十九日法要と納骨式。「春耕」連中15人程。墓は大日堂横の山の中腹。鍵和田柚子さんの墓のななめ向かい側。あと講堂にて直会。川澄貫主もご一緒。あと門前の蕎麦屋にて飲む。
- 10.12 (火)

「火の会」、出句12人。兼題であった芋煮碗を出す。好評。盤水先生のものまねの天国の先生との電話などに皆泣き笑い。

- 10.13 (水)

発行所を会場とする「梶の葉句会」（座長孝子さん）皆、先月より格段に上達。水内慶太氏、本行寺加茂住職 他「月の匣」連中来店。先日の「ひぐらしの里俳句大会」の写真など戴く。村田脩先生の御長女・角佐穂子さんから入会申込書と手紙着、「萩」追悼号発送手続中と。
- 10.14 (木)

対馬康子、小川洋、土肥あき子3氏の10月生まれの誕生祝い会。シャンパン2本。
- 10.16 (土)

「纏句会」あと運営委員会。本部句会、設立総会、句会統括の件など。
- 10.19 (火)

早い時間、榎本好宏氏来店。18:30より湯島句会の今後の運営についての打ち合わせ、道遊氏が座長。8人。
- 10.20 (水)

伊那北高校同期の定例会「三水会」8人。しなだしん氏、河合前「俳句」編集長来店。あとNY在住の月野ぼほなさん来る。伊那北の後輩にて「三水会」連中大喜び。
- 10.21 (木)

銀漢句会。あと22人が来店。熱気あり。
- 10.22 (金)

清人さんが気仙沼の鰯2本、帆立10、さんま10を持ち込み、友人13名集めてパーティー。谷岡健彦氏東工大教授内定と。遅くに岸本尚毅、本井英、井越芳子、山田真砂年氏等来店。小諸の日盛り俳句大会の件、本井氏より来年の参加要請あり。
- 10.23 (土)

21:00過、上越新幹線にて新潟。「いなほ」に乗り替えて鶴岡。「春耕」出羽三山鍛錬会。85名程。バスにて羽黒山の三山合祭殿にて祈祷受く。南谷の師の句碑。三光院投宿。すぐ3句出しの句会。終わって宴会。湯田川神楽を楽しむ。袖口満さんの昼、12:17、長女・桃子、山王病院にて男子出産。2794 g。安産。5人目の孫。
- 10.24 (日)

6:00前起こされる。強烈な二日酔い。30分風呂。7:30、出発。随神門から五重塔へ。あと一路湯殿山へ。樺林を中心とした黄葉の山美し。湯殿にておはらい受く。足湯。斎館にて昼食。14:00過ぎ、鶴岡駅にて解散。武田氏の車で帰宅。0時過ぎ。
- 10.25 (月)

毎日新聞記者だった森英介氏が執筆途中癌で死去したあと石寒太氏が引き継いで完成させた『いのちの一句』（毎日新聞社）が上梓。小生の妻の記事が森さん最後のインタビューであった。
- 10.29 (木)

松本にて発行の藤岡筑邨主宰「りんどう」に1年間執筆した同人評を来年は西村麒麟氏を指名して交替。今年の角川賞、「俳句」11月号に発表あり。予選通過作品34作の中に湯島句会のメンバー4名！内村恭子、近恵、月野ぼほな、西村麒麟各氏、また遠藤由樹子さんは店の句会「火の会」のメンバー。
- 10.30 (土)

「沖」俳句会40周年。台風の中、17:30よりアルカディア市ヶ谷。百名近いゲスト。終わって2階で二次会。研三主宰が出席会員（200人以上？）全員に記念の短冊を書いたというのに驚嘆！あと近くの居酒屋へ。
- 10.31 (日)

かねて懸案の対馬康子さんの、讃岐うどんを食べる会を道遊邸で。森伊蔵、久保田原酒、越乃寒梅空く。小生が饅頭炊。10人。句会2回。
- 11.01 (月)

2階発行所で編集会議。店1階奥にて企画部会議。
- 11.03 (水)

前夜の酒で強烈な二日酔いのまま「十六夜句」会皇居吟行。天守台、松の廊下跡など。本丸の芝生に眠り、電話で起こされる。発行所で句会。
- 11.05 (金)

「りんどう」同人評12回目の最終稿書き上げる。角川添削5人分仕上げる。これで安心して明日京都へ行ける。杉阪大和さんが若手養成句会を開くとて、中島雄一、こしだまは、森濱直之、谷岡健彦氏を招集。岩崎由紀は旅行で不都合。中村紘子、西原舞は投句で参加の意向にて、7名程が第4金曜日に句会を開くこととなる「金星句会」と。
- 11.06 (土)

6:00起床。8:07発の新幹線で京都へ向かう。13:00から、ホテル・ザ・パレスサイド2階にて朝妻力主宰の「雲の峰」年次総会。1時間講演。盤水先生のこと。銀漢俳句会設立のことなど。宴のあといつもの二次会、2句出し挙手句会。
- 11.07 (日)

8:30発バス2台にて大原途中越え、琵琶湖大橋渡り、近江八幡。水郷を舟。安土城、観音寺城など間近に見る。秋の霞の中、うたた寝。あと五箇荘、八幡山城など巡る。17:00京都駅で解散。妻の従姉妹など呼び出して市中で酒盛り。20:00の新幹線に飛び乗る。
- 11.09 (火)

「火の会」12人盛況。鯛の粕煮出す。近江の鮒鮓、赤こんにゃくなども。
- 11.10 (水)

「梶の葉句会」選句。つづいて18:30から、業務部設立総会打ち合わせ。終わって10人が奥。別の席で、真砂年、麒麟、一平、うさぎ、卓氏が勉強会。京極紀陽について。熱心！
- 11.12 (金)

「萩」俳句会の方々から入会申し込み書届きはじめる。昨日10通、今日6通……。
- 11.13 (土)

11:00より運営委員会。13:00より第1回「銀漢本部句会」（ひまわり会館）。出席45人。心地良い緊張感。あと神保町の中華店36人。更に二次会。熱気充滿。